

# つながる力

《No.20》



## 5月30日、第8回総会をリモート開催

～～ 16都府県から51名が参加 ～～



辺野古土砂全協第8回総会は5月30日、主会場に予定の北九州市の公共施設が新型コロナウイルス感染拡大のため休館となり、リモートだけの開催となりました。16都府県から51名が参加されました。

総会は遺骨収集ボランティア・具志堅隆松さんの講演に始まり、予定の3時間を超える活発な議論が展開されました。第8回総会報告は2～6頁に掲載しています。

### 《目次》

5月30日、辺野古土砂全協 第8回総会で 具志堅隆松さん リモート講演	2～3
辺野古土砂全協第8回総会報告	松本宣崇 4～5
辺野古土砂全協2020年度決算・2021年度予算	6
6月23日 具志堅さんのハンストに連帯 東京集会	大谷正穂 7
糸満からの遺骨の眠る土砂の採取を許さない!	沖縄県糸満市・伊敷郁子 8
日本政府が勝手に使っている沖縄の土砂は一粒もない!	沖縄県八重瀬町・沖本裕司 9
南部土砂採取断念を求めて	沖縄県南風原町・松井裕子 10
「遺骨の眠る土砂採取反対」意見書 5地方議会で採択	大谷正穂 11～12
「土砂採掘断念、全国で声を」 具志堅隆松さん、1743 議会で要請書	21.07.20 琉球新報 13
大津幸夫さんのご逝去を悼みます	辺野古土砂全協 14
《沖縄からの便り その14》 沖縄県の「設計変更不承認」を支えよう	浦島悦子 15
インフォメーション 辺野古土砂全協第9回総会、鹿児島市で開催決定	16

写真提供 末田一秀 松本宣崇 毛利孝雄 沖本裕司 松井裕子 阿部悦子

## 5月30日、辺野古土砂全協 第8回総会で

### 遺骨収集ボランティア 具志堅隆松 さん リモート講演

#### ●遺骨を遺族に返すことを目指して



21.6.26 日テレ系列放映「ウェークアップ」より  
4月21日辺野古土砂全協など4団体による防衛・厚労省  
交渉で厚労省に鋭い質問を浴びせる具志堅隆松さん

ガマフヤーをやっています具志堅隆松です。私は長年、戦没者の遺骨収集をやっており、遺骨を家族の元に返すという活動です。それは大変難しい作業です。なぜなら身元が分からないからです。

本来兵隊なら「認識票」というのを持っているはずなんですが、沖縄ではその「認識票」を持って出てくる遺骨は殆どありません。沖縄戦を体験した元軍人の方に聞きますと、彼らは「認識票は取り上げられた」というのです。「認識票を付けたまま死なれたら、そこにどういふ日本軍部隊がいたかがアメリカ軍にバレてしまうからだ」というのです。それを裏付けるように認識票が13枚位まとまって出てきたのを3例ほど知っています。13というのは日本軍部隊の一番小さい「分隊」の人数です。ですから分隊長がまとめて持っていたのかと推測しました。そうやって見つかる遺骨のほとんどが身元不明なのですが、日本軍で記名のある万年筆を持っている場合もあり、これは分かります。

しかし、沖縄の住民に至っては戦後70年もたつて名前が残る遺品を持っているというのはありません。私はそれらの遺骨をどうにかして家族の元に返したいと試行錯誤を繰り返してきたのですが、アメリカではDNA鑑定をやっていると聞き、日本政府に要求したのです。しかし政府は「沖

縄は南方のため遺骨の劣化が早く、DNAが取れない」との回答でした。それでもシベリアの遺骨は全部DNA鑑定をやって800体余りを返したということが2003年にあり、私は沖縄の遺骨にもやってくれと声を挙げ続けていました。結果的には今、沖縄の遺骨は全部DNA鑑定の対象となっており、現在700体余りの遺骨を家族に返すというところまで進んでいます。

#### ●遺骨収集現場の土砂が辺野古埋立てに！

しかし、これと逆行することが同時に進められています。どういうことかと言いますと、防衛省が辺野古の埋め立てに新たに沖縄県内7か所から土砂を採取するというのを、去年4月に沖縄県に提出した「埋立て変更計画」の中に記載したのです。そのうちの2か所が本島南部、糸満市と八重瀬町で、そこは正に私たちが遺骨収集をしている所なのです。

去年11月にそれが分かり、急遽声を挙げ始めました。11月20日に防衛局を訪ねて要請したのは、「土砂採取の現場をいっしょに見に行ってください」ということでした。これは防衛局が沖縄南部にそういう遺骨があることを知らなかったのではと善意に解釈したからでしたが、彼らが言ったのは「まだ決まったことではない」と、何回聞いても繰り返します。そこで、「一つだけ答えて下さい。皆さんがこの計画を立てたとき沖縄本島南部に戦没者の遺骨があることを知っていましたか」と何回聞いても黙っていて答えません。そこで私は「皆さんは認識していたということですね。知っていてやったことならば、これは人の道に外れていますよ。キツイ言い方をしますが、是非これに反論して下さい」と言いましたが、何の反応もありません。要するに国は沖縄本島南部に戦没者の遺骨があるという認識のもとにこういう計画を立てたんです。

次に、沖縄防衛局には2月26日に北上田さんに行きました。その時はズバリ、「計画を断念して下さい

い」と要請しました。翌 27 日には衆議院議員の赤嶺誠賢さんがこの質問をしましたが、菅首相も「まだ決まったことではない」と同じ回答を繰り返すだけなんです。結果はゼロ回答です。

## ●ハンガーストライキは

### 県民、国民に訴えるために

それで私たちは「もうこのことを県民、国民に訴えるしかない」と思って始めたのが 3 月 1 日から 6 日までの県庁前でのハンガーストライキでした。この期間中多くの方が訪れて激励してくれましたが、特に遺族の方からのお話は切実なもので、こちらが言葉を失うような話があり、県内のマスコミはこれを広く報道してくれて嬉しかったのです。

この時訪れて下さった多くの方が普段は平和運動や反基地運動などにはほとんど縁のない方々で、遺骨問題に対する沖縄県民の想いの裾の広さを実感しました。ただ、残念だったのは本土における報道は私の知る限りではちょっと弱かったかなと思いました。

こういう国の計画を知った人の多くからは、「いくら何でも国がそういうことをするはずないんじゃないか」という疑問と抗議の声があがりました。そこで私は「まず大事なことは全国のご遺族を含めた人々に知ってもらうことではないか」と考えました。来月の 6 月 23 日は沖縄にとって戦没者慰霊の日です。この時には全国からも多くのご遺族が戦没者の追悼式に参加されますので、チャンスととらえて国への抗議も込めて再びハンガーストライキを行います。

今回のハンガーストライキは 6 月 19 日から 23 日までですが、この時に知事に訴えたいと思います。

「南部土砂問題の根本的な解決のための方法があります。沖縄県知事が防衛省から出された申請を、『人道上の観点から』不承認にしてください」ということです。この沖縄県知事の不承認が大きな鍵を握ると思います。

## ●遺骨のある現場で遺骨のない土砂を

### 収集することは物理的に無理

国会での菅首相が答弁は、「まだ決まったことではありませんが、もし南部から土砂を採取するとな

ったら、業者が戦没者の遺骨に配慮することを義務付ける契約になると思います」と言ったんですが、これは根本的に間違っています。遺骨収集というのは 2016 年に成立した「戦没者の遺骨収集の促進に関する法律」の冒頭の部分に「戦没者の遺骨収集は国の責任である」と謳われています。業者の責任にしてしまおうというのが、まず間違っているんです。




それから業者の方からは「遺骨収集を業者が出来るのか」という質問もあります。私は、無理だと言っています。例えば実際の現場で遺骨と石と両方を手の平に乗せて「どちらが遺骨か分かりますか」と聞いても分からないんです。人間の長い骨が出てくれば、それは分かるんですけど、南部の遺骨の特徴というのは、砕けた骨、アメリカ軍の砲撃によって砕けて粉々になっていることが多いんです。そういう骨を業者が収容できるかという、無理です。中には海綿状の薄い骨になっていて、ほとんど風化しているものもあります。ですから遺骨がある現場で遺骨のない土砂を収集するのは、物理的に無理なんです。

## ●南部の地を「慰霊と平和を考える」霊域に

そういう意味で、私は収容できる遺骨は DNA 鑑定をして遺族に戻すけれど、収容できないような粉砕骨はもう、現場に安置して、殺された人の御霊を慰める、「慰霊と平和を考える」そういうような霊域にするべきだと考えています。で、そもそも今回問題となった場所も、国定沖縄戦跡公園という、戦争があった場所としての公園なんです。その戦跡公園の中でも普通地域か特別地域かということで、開発に知事の許可があるのか、届け出で済むのかという仕組みがあったことが今回問題になったんですけど、そういう仕組みに対しても今、沖縄県に対応を求めている段階で、公園法の解釈をさらに厳しくしていくとか、沖縄県で条例を作って、戦跡公園以外での戦没者の遺骨についても保護を求めるような、そういう方向を目指していけたらと思います。


(5 月 30 日の講演のテープ起こしとまとめは、阿部悦子(共同代表)が担当しました)





# 辺野古土砂全協第8回総会報告

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇



辺野古土砂全協第8回総会は5月30日、オンラインのみの開催となりました。

2020年度決算、2021年度予算並びに2021年度活動方針等、以下の通り承認されました。

## 《2021年度活動方針》

### 1、遺骨混じりの土砂を埋め立てに使わせないための行動を起こそう

4月21日の防衛・厚生労働省交渉で沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」代表 具志堅隆松さんは、6・23 沖縄慰霊の日や8・15 敗戦の日に、ハンスト決行の計画を話された。右翼の襲撃も予想される中でハンストを考えられたのは、この問題への本土の無関心さがある。各地で具志堅さんとのオンライン学習会開催や、ハンスト支援のアピールを出すなど、遺骨の眠る土砂を埋め立てに使わせない世論をおこそう。

また、コロナ感染状況に勘案しつつ、沖縄県南部糸満・八重瀬の採取地に足を運び、現地住民と交流・連携を図るなど、南部の問題を肌身で受け止めるツアーを試みたい。

### 2、各地の土砂搬出地の活動につなごう

鹿児島などの現地では、馬毛島米軍離発着訓練基地計画や高レベル放射性廃棄物処分受け入れや川内原発など、重要課題が山積。このような中で土砂搬出問題を共有し長期にわたる取り組みを共に続けていくために、顔の見える関係づくりから始めよう。沖縄・鹿児島・熊本の新たな土砂採取現場を見るとともに、現地住民と情報を共有し、交流・連携を図ろう。

### 3、沖縄県土砂条例改正陳情をつづけよう

防衛省が本土から沖縄での土砂調達にシフトした背景には、沖縄県の土砂条例がある。「命令規定」「特定以外の外来種対象」などを加えた、同条例強化に向けた取り組みをつづけよう。

### 4、申請不承認の沖縄県知事を支えよう

土砂全協は「設計変更申請」の意見書提出に取り組んだが、玉城知事が不承認を発表することは必然

である。そのことを多くの人に知らせる学習会や宣伝活動、また、国会包囲実行委員会の「不承認支持」を広く訴える「辺野古ブルーアクション」に込め各地で意思表示の活動をしよう。

また、基地建設が物理的に困難・愛知目標に逆行する生物多様性の破壊が進むこと・沖縄県の意見の正しさ等、不承認を支持する声を広げよう。

### 5、コロナの状況を見つつ、現地に行こう

コロナ禍により現地の抗議行動も、様々な制約を受けている。オール沖縄会議では、独自のコロナガイドラインに基づき、現在キャンプシュワブゲート前では、搬入トラック記録係の感染に配慮し、監視行動のみを行っている。安和棧橋・塩川港では、野外であることから、安全な形で来てもらう事は可能との事だか、本格的にはコロナの感染拡大収束後、現地に行くことを呼びかけたい。

### 6、対政府交渉を継続していこう

4月21日の防衛・厚生労働省交渉は、「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会(総がかり行動)」「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会(土砂全協)」「平和をつくり出す宗教者ネット(宗教者ネット)」「止めよう！辺野古埋立て国会包囲実行委員会(国会包囲実)」の4団体により初めて共催された。この経験を踏まえ、4団体相互の更なる交流・連携を醸成し、4団体共催による対政府交渉を追求していく。

## 《役員の確認について》

以下の様に、役員交代・団体加盟・協賛団体加盟があった。

■熊本 《「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会》 お亡くなりになられた役員・生駒研二さんから、間司(はざまつかさ)さんに交代。

《辺野古土砂搬出反対うきの会》が団体加盟。

役員は日高紀登美さん。

規約に基づき役員任期は2年で、任期途中就任となる新規役員の任期は、次回総会までとなります。

■鹿児島 《鹿児島に米軍はいらない県民の会》

が団体加盟。 役員は磨島昭広さん。



役員は下記の皆さんです。

**共同代表** 阿部悦子（環瀬戸内海会議） 大谷正穂（辺野古に土砂を送らせない！山口のこえ）  
**顧問** 湯浅一郎（環瀬戸内海会議） 北上田毅（沖縄平和市民連絡会）  
末田一秀（環瀬戸内海会議） 大津幸夫（自然と文化を守る奄美会議 21.7.23 逝去）  
**事務局長** 松本宣崇（環瀬戸内海会議） ～ 財政を兼任  
**同次長** 八記久美子（「辺野古埋め立て土砂搬出反対」北九州連絡協議会）  
**会計監査** 五宝光基（辺野古に基地をつくらせない香川の会） 土居立子（市民の広場・愛媛）  
**役員** 浦島悦子（島ぐるみ会議名護） 阿波根美奈子（本部町島ぐるみ会議） 城村典文（自然と文化を守る奄美会議） 碓山勇生（手広海岸を守る会） 森 紘道（奄美市住用町市環境対策委員会）  
大坪満寿子（南大隅を愛する会） 歌野 敬（五島列島自然と文化の会） 新田秀樹（広島と沖縄をむすぶドゥシグワー） 溝渕裕子（辺野古に基地をつくらせない香川の会） 富田恒子（小豆島環境と健康を考える会） 柴田天津雄（辺野古のケーソンをつくらせない三重県民の会） 毛利孝雄（辺野古土砂搬出反対!首都圏G） 安部真理子（海の生き物を守る会） 當島勝文（徳之島）～以上は第7回総会で就任  
**新任** 間 司（「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会） 日高紀登美（辺野古土砂搬出反対うきの会） 磨島昭広（鹿児島に米軍はいらない県民の会）～第8回総会で就任

## 沖縄県知事の設計変更「不承認」を支えよう！

### 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

沖縄防衛局の「辺野古埋立工事設計変更」申請に対する沖縄県知事の判断は、今春3月にも出るのではと言われていました。それから6ヶ月を経、本号「つながる力」20号は、知事判断を待って、「不承認」を支持する声明を発するとともに、私ども辺野古土砂全協の意見書に対する言及についての評価・分析の論稿も加え発刊する予定でした。

沖縄県からの沖縄防衛局への四度にわたる質問書、その回答に対する沖縄県の審査が続き、「第五波」と言われるコロナ感染の急拡大、沖縄県は目下緊急事態宣言下にあり、十万人当たりの感染者数は全国一、二を争う深刻な事態になっています。

このような中、知事の判断発表は更に先送りの可能性もあり、「遺骨の眠る沖縄南部からの土砂採取をしないよう」国に求める意見書の採択を求める地方議会9月議会への請願・陳情を呼びかけていくため、知事判断を待たずに発刊することを決断しました。

知事判断が「不承認」となることは、知事選での公約「辺野古土砂全協新基地建設反対」やこれまでの言動から揺るぎないと確信しています。全国で地方議会に対し「遺骨土砂採取を止める」意見書採択の請願・陳情とともに、沖縄県知事の変更申請「不承認」判断を支えていきたいと思えます。「不承認」支持の声を全国から挙げていきましょう。

**辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会**  
**第6期(2020.4.1～2021.3.31)予算及び決算**  
**並びに次期、第7期(2021.4.1～2022.3.31)予算案**

	勘定科目	補助科目	第6期		第7期予算
			予算	決算	
収           入	前期繰越		545,143	545,143	1,259,516
	会費		700,000	1,084,000	1,000,000
		団体年会費	100,000	130,000	100,000
		個人年会費	600,000	924,000	900,000
		総会参加費等	0	30,000	0
	事業収入		80,000	22,800	20,000
		辺野古冊子販売	60,000	22,800	10,000
		集会シンポ等	20,000	0	10,000
	寄付・カンパ		900,000	1,275,820	900,000
	雑収入		10	12	10
		雑収入	0	0	0
		受取利息	10	12	10
	辺野古基金助成		0	0	0
合 計			2,225,153	2,927,775	3,179,526

支           出	外注費		0	6,090	10,000
	機関紙費		985,000	690,196	1,025,000
		封筒・振替用紙	65,000	62,920	65,000
		印刷費	600,000	389,609	600,000
		発送費	320,000	237,667	360,000
	会議費		100,000	9,170	100,000
		総会費	0	9,170	0
		役員会	50,000	0	50,000
		集会開催費	50,000	0	50,000
	旅費交通費		500,000	147,820	500,000
	通信費		15,000	141,794	15,000
	事務消耗品費		10,000	44,589	210,000
	支払手数料		3,000	1,700	3,000
雑費		10,000	10,400	10,000	
振替通知料金		0	16,500	20,000	
事務費		600,000	600,000	600,000	
合 計			2,223,000	1,668,259	2,493,000
当期残高(次期繰越金)			2,153	1,259,516	686,526

**監 査 報 告**

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第6期(2020年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 宝 光 基  監 査 土 居 立 子 

# 6月23日 具志堅さんのハンストに連帯 東京集会

辺野古土砂全協共同代表 大谷正穂



6月23日 東京集会にズームで平和の礎から報告する具志堅隆松さん

6月19日から23日「沖縄慰霊の日」までの5日間、具志堅隆松さんらによる2度目のハンガーストライキが県庁前広場・平和の礎で行われた。沖縄戦犠牲者の遺骨等を含む土砂による辺野古埋め立てを許さないための、やむにやまれぬ行動である。「世の中には絶対と言えることはそんなに多くない、けれどもこの計画だけは絶対に間違っている」—具志堅さんの渾身の言葉だ。

6月23日東京では、具志堅さんのハンストに連帯する行動がおこなわれた。呼びかけは「平和をつくり出す宗教者ネット」など。約100人の参加が

あり、平和の礎から具志堅さんの映像も届いた。姿を拝見し声を聞くだけでも参加してよかった。若者たちの発言や取り組みも紹介された。

大阪府茨木市の山下市議が「全会一致で遺骨を埋め立てに使うことに反対する意見書が採択された」と発言し、注目された。議会の構成にもよるが、保守の強いところでは採択は無理にしても県内の有志自治体議員連名での声明発表などは、政府に声を示し世論を起す有効な取り組みになるなど感じた。

みになるなど感じた。

土砂全協からは「具志堅さんがハンストをされる背景には、遺骨問題について特に本土側の無関心がある」とし、山口県で遺族や元兵士たちへのアンケートに取り組む事例を紹介し「創意工夫し無関心を突き崩そう」と発言した。

集会終了後は会場の参議院会館前で、小雨のなか国会包囲実呼びかけのアピール行動に参加した。

(2021. 6. 25)



連帯集会で発言する大谷共同代表



雨の中、国会議員会館前のアピール行動

\*\*\*\*\*

# 沖縄戦の激戦地 糸満からの 遺骨の眠る土砂の採取を許さない！

糸満市議会議員 伊敷郁子

\*\*\*\*\*

糸満市は、先の大戦の終焉の地として知られ、市内には、各都道府県の慰霊碑や「平和の礎」など24万余の戦没者の眠る地です。戦跡を保護し、戦争の悲惨さ、平和の尊さを認識し戦没者の霊を慰めるため、国内唯一の《戦跡国定公園》に定められています。

市内各地には、今なお沖縄戦で一家全滅した屋敷跡や、住民が避難した壕も手つかずのまま多く存在します。戦後76年経ってさえ、このような戦争の傷跡を抱えながら生活を余儀なくされている私たちに、政府が辺野古米軍新基地建設の為に南部からの土砂搬入を検討しているという報道は、衝撃的でした。



熊野鉱山 20.11.27 沖縄ドローンプロジェクト撮影  
設計変更申請で新規参入した業者の鉱山だ

昨年、新たに土砂採掘の開発行為がなされた米須地域の「魂魄の塔」西側の鉱山からは、戦没者の遺骨がみつかりました。この行為に対し「遺骨混じりの土砂を軍事基地建設に使用するのは、戦没者への冒瀆、二度も殺すのかと」県内外から多くの批判がよせられています。

平成13年(2001年)この鉱山による、鉱業権設定申請の際に糸満市から、「当該出願地域は、農用地としての利用を優先する農用地域であり、

又、区域内には国営地下ダム地下水源区域も含まれており、今後の農業・農村の活性化に向けて、南部地下ダム開発計画を推進する主要拠点になっていること等を鑑み、地下資源の適正利用の妨げになると思いますので、農業の振興をする上でも鉱業の実施には、反対である。」との意見が明確に表明されております。にもかかわらず国により鉱業権が設定されております。地域自治体の意見を無視する日本政府のこの在り方は、残念ながら現在も変わっておりません。

この鉱山については、令和3(2021)年3月糸満市議会に地域からも「先の大戦で甚大な犠牲が出た糸満市米須の採掘に対して同開発区域には、戦時中に避難場所として住民が身を潜めた自然壕が数か所あり、その中で命を長らえた地元住民も開発に対し懸念している。また、開発地区には、琉球王朝時代から地域住民が畏敬の念をもって接するシーガーブと呼ばれる自然壕もあり歴史的事象を語る貴重な場所である。それとともに、この開発区域に隣接し戦没者を祀る多くの慰霊の塔があり鎮魂と平和発信のための場所となっている。戦跡国定公園内の採掘に対し地域の住民感情に配慮することと速やかな遺骨収集を国の責任において行うこと等を県や国等の関係機関に意見書を提出してほしい」と要望書が提出されております。

現在この鉱山は、休止状態ではありますが、開発再開に向け様々な動きが聞こえてくる。今後も注視して、いかなければと思っています。本市には、鉱山事業者が18業者あり、中には、提出した計画書の通り行わず乱開発をしている事業者も多くいます。南部からの土砂搬出は、さらに地域の乱開発にならないかと懸念しています。

(2021.8.3)





埋め立てストップ！南部の土砂は使わせない！ 島ぐるみ八重瀬の取り組み

## 日本政府が勝手に使っている沖縄の土砂は一粒もない！

島ぐるみ八重瀬の会事務局長 沖本裕司

沖縄防衛局が昨年提出した埋立変更申請の内容は、大浦湾の活断層・軟弱地盤の問題と共に、南部地区から大量の土砂を搬出する計画を示していた。島ぐるみ八重瀬の会では、7月と9月の二回、「設計変更に対する意見書を玉城知事に届けよう！」と、学習・意見書を書く会を開いた。



20.11.28 「糸満・八重瀬地区の土石を辺野古埋め立てに使用してはならない」を掲げた学習会に45人。

そこでの意見書の内容は、「遺骨混じりの南部の土砂を埋め立てに使ってはならない」「工事費をコロナ対策へ」「辺野古反対の民意は示されている。県民投票を尊重せよ」「軟弱地盤で工事は不可能で、大浦湾の環境破壊は深刻」「沖縄全域からの土砂採取により島の生態系や環境破壊が進むことを危惧」「九死に一生を得た戦争体験者として軍事基地建設に反対」など、多岐に渡った。

縦覧期間中の2020年9月18日、ハガキ2枚を含むこれら意見書68通をもって県庁を訪れ、海岸防災課に提出した。

その後、地元の採石場がどうなっているのか、現地調査を始めた。南城、糸満、南風原、豊見城のメンバーと共に、沖縄ドローン・プロジェクトの奥間政則さんと同行し、南部地区の採石場を調べて、学習会や報告会を重ねた。

八重瀬町内には稼働中の鉱山が、①八重瀬鉱山（八重瀬岳の野球場横）、②大里砕石東風平鉱山

（字高良、航空自衛隊の通称ガメラレーダーの崖下）、③第2丸真コーラル鉱山（字仲座、国道北）、④第2丸真コーラル鉱山（字与座、国道南）の四か所ある。さらに、八重瀬岳から県道15号線に向かってまだ稼働していない広大な鉱山があることが判明した。

これら鉱山の昨年4月から11月まで約八か月の課税のもとになった産出量は約4万トン、仮に比重約1.33とすると3万m<sup>3</sup>に相当する。変更申請では、南部からの調達可能量は3,160万m<sup>3</sup>とされているので、この約千倍の土砂の搬出が可能とされていることになる。とてつもない量である。隆起サンゴ礁の森と海がつくり出した亜熱帯の島・沖縄南部の石灰岩と独特の景観は県民の財産であり、日本政府が県民の許可なく勝手に使うことは許されない。



第2丸真コーラル鉱山（与座） 21.4.17撮影

島ぐるみ八重瀬では、意見交換を重ねて、八重瀬町議会（20年12月3日）と沖縄県議会（21年3月9日）に陳情書を提出した。ガマフヤーの具志堅さんと支援者のハンストを通じて全県に広がった、遺骨を含んだ土を埋め立てに使ってはならない、という主張は県民の総意である。八重瀬町議会でも、南部の土砂を埋め立てに使用しないことを求める意見書を全会一致で採択した。島ぐるみの力を結集して、南部地区からの採石を止めて緑地帯や隆起サンゴ礁の戦跡公園を守り、新基地建設を阻止しよう。（2021, 7, 22）

# 南部土砂採取断念を求めて

島ぐるみ会議・南風原会員 松井裕子

2015年8月1日結成以来、折々の学習会を開きながら現場へ足を運んでいます。政府・沖縄防衛局が、辺野古浅瀬の埋立てを加速するために土砂の海上輸送を画策したのが2018年。闘いの現場が広がる中で、当初のCシュワブゲート前から名護市安波栈橋ゲート前へ、そして本部町塩川地区まで足を運ぶことになりました。何よりも本部町島ぐるみ会議の仲間たちの受け入れ態勢があってこそ実現出来ています。”土砂”を巡って「土砂全協」の皆さんとつながることで環境問題の視点を捉える大切さも知らされました。

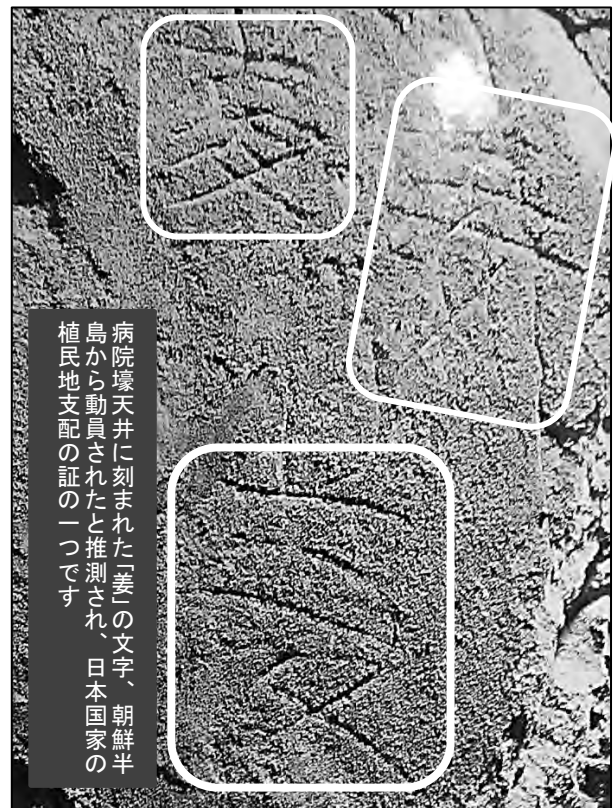
2020年4月に出された「設計概要変更承認申請」では、採取土砂の7割を西日本6県に加え、沖縄南部からも調達可能とされています。

## 南風原町黄金森陸軍病院壕跡



同じ南部でも石灰岩のない南風原は候補地ではありませんが、76年前の沖縄戦という共通項があります。海に面していない地勢から軍の兵站機能を担われ、1944年10月10日の大空襲以降、隣的那覇市から焼け出されてきた沖縄陸軍病院が南風原国民学校校舎を接收して再開していました。翌年3月にも空襲を受け隣接する黄金森に30数カ所の横穴壕を掘り、多数の傷病兵を収容、連日、外科手術が行われていました。兵士の切り落とされた腕や足も壕外の艦砲弾で出来た大穴に投げ込まれたまま土に帰したかと思われます。45年5月末、司令部以下全軍の南部への撤退方針に当っては、独歩患者以外の残された重傷兵は軍機漏洩防止を名目に青酸カリなどで

毒殺されています。町では病院壕群を文化財に指定、「20号壕」を2007年より一般公開しています。”身は鴻毛の羽より軽しと思え”と戦陣訓で唱えられたように、戦場動員された兵士の命の扱われ方を学ぶ大切な場でもあります。また南風原にとどまった住民も、島の南端まで逃れた人々も合わせて44%強の戦死率を示しています。



## 南風原町議会3月議会、陳情採択

今年の3月南風原町議会を前に、南部土砂を採取しないよう求める陳情書を提出。本会議に先立つ総務民政委員会では遺族2名が趣旨を述べ、議員の質問に答える中、ある議員は感極まって絶句すること暫し、場の空気が一変し、ある共通する思いに満たされるのを肌で感じました。所属によっては「辺野古」の文言を外したい議員もいたはずですが、全会一致で採択されました。委員会始まって以来という傍聴に8名が参加。土地の記憶の重さをあらためて知るところとなりました。(2021.7.22)

# 「遺骨の眠る土砂採取反対」意見書 5地方議会で採択

## 9月議会で更に意見書採択を

辺野古土砂全協共同代表 大谷正穂

沖縄県南部からの土砂採取計画に対し、地方議会6月定例会で、沖縄県外の少なくとも5議会が「遺骨の眠る土砂を埋め立てに使用しないよう」国に求める意見書（下表）を採択した。

小金井市議会は、「辺野古新基地建設の埋め立てに使用しない」と、基地名を明示した意見書を可決した。他は辺野古に触れず一般化した意見書が目立つ。ただし珠洲市議会の結論には注目。自民党議員が紹介議員になっており否決を避けられたのかも。自民党議員が「賛成」した議会もあり、自民党は必ずしも全国統一对応ではない。公明党もしかり。ただ今後、陳情・請願等が全国化した場合、党中央は締付けを強める可能性もある。請願等による議会決議成功の鍵は、保守系を捲き込むことにありそう。

土砂全協の仲間が北九州市議会9月定例会に向け請願署名等を準備している。

全国の地方議会から「辺野古埋め立てに遺骨の眠る土砂を使用しないよう」国に求める意見書を！

地方議会で意見書採択の請願・陳情を進めよう！



21.6.23 朝日新聞 大阪東部・河内版  
大阪茨木市議会辺野古遺骨土砂反対意見書可決  
大阪府在住の会員からメールで提供頂きました

### ☆ 6月定例議会での地方議会の採決状況

議 会	議決年月日	採決結果	備 考
石川県金沢市議会+	21.06.21	可 決	超党派の議員提案 全会一致
大阪府茨木市議会	21.06.22	可 決	全会一致
東京都小金井市議会	21.06.25	採 択	議員提案を賛成 11 反対 1。自公など退席 11
大阪府吹田市議会	21.06.28	可 決	議員提案 維新反対
奈良県議会	21.07.02	可 決	全会一致
愛媛県議会	20.07.07.	不採択	市民陳情 松山市議会9月議会で陳情準備中
山形県鶴岡市	21.07.01	否決	無党派退席
福岡県大牟田市	21.06.25	否決	賛成7-反対16
福岡県北九州市議会	21.06.16	継続審査	市民陳情 9月議会へ請願提出へ署名運動
福岡県柳川市議会	21.06.25	継続審査	
石川県珠洲市議会	21.06.30	継続審査	自民党市議一人が請願紹介議員に
兵庫県三田市議会			5月10日陳情 審議・採決結果は非公表
東京都千代田区議会	21.06.17	継続審査	6月7日市民による陳情 9月議会へ準備中

小金井市議会で6月25日、採択された意見書を転載します。  
今後、地方議会への請願・陳情を進める参考にして下さい。

## 「沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を

### 辺野古新基地建設の埋め立て等に使用しないよう求める意見書」

1945年4月1日、沖縄本島に上陸した米軍との激しい地上戦の末、日本軍は5月末日には首里城司令部壕から本島南部に撤退した。そのために、南部に避難していた住民と日本軍が混在状態となり、沖縄戦戦没者の半数以上と言われるおびただしい犠牲者が発生した。沖縄戦では沖縄県民約12万人、日本本土兵等約7万7千人、米兵約1万4千人、朝鮮半島出身者等併せて20万人余の尊い生命が失われた。

戦後、沖縄県民は戦争犠牲者の遺骨を収集して糸満市米須の「魂魄の塔」をはじめ慰霊の塔を次々に建立して戦没者の霊を吊ってきた。この「魂魄の塔」のすぐそばに「大和の塔」が1967年11月に建立された。この南部一帯には本県出身戦没者をはじめ多くの戦争犠牲者の人々が眠っている。

日本政府（防衛省・沖縄防衛局）は、昨年4月に提出された「辺野古埋立設計変更申請書」において、この沖縄戦跡国定公園を含む南部地区、特に糸満市米須地区や八重瀬町の山野の土砂を採掘して辺野古新基地建設の埋め立てに使用する計画を発表した。

遺骨収集ボランティアの具志堅隆松氏は「戦没者の遺骨が混じり、血が染み込んだ土砂を新基地建設に使うことは人道上許されない」と訴えている。

沖縄県の一昨年2月の「辺野古米軍基地建設のための埋め立ての賛否を問う県民投票」では辺野古新基地反対が約72%となったが、今回の「遺骨で辺野古を埋め立てる」問題は、新基地建設如何を問わず人道上の問題である。

戦没者の遺骨を新基地建設の埋め立てに使用することは、犠牲者の人々の尊厳を冒瀆し、「物言わぬ」戦没者を二度殺すような人の道に反する行為に他ならない。

日本政府は、2016年3月に超党派の議員立法で「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」を制定した。戦没者の遺骨収集を国の責務とした時限立法（2024年まで）である。何よりも日本政府に求められているのは、この法律を遵守して沖縄戦戦没者の遺骨を含む土砂を辺野古の新基地建設に使用することを止めることである。

よって、小金井市議会は、政府に対して以下の事項を求めるものである。

#### 記

- 1 沖縄戦戦没者の遺骨等を含む土砂を辺野古新基地建設の埋め立て等に使用しないこと。
- 2 日本で唯一、住民を巻き込んだ苛烈な地上戦があった沖縄の事情に鑑み、「戦没者の遺骨収集の推進に関する法律」を遵守し、日本政府が主体となって戦没者遺骨収集を実施すること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。 令和3年6月25日

（キーワード） 戦没者の遺骨収集の推進に関する法律（略称：遺骨収集推進法 2016年成立）

自然公園法 沖縄戦跡国定公園 魂魄の塔（こんぱくのとう） 平和の礎（へいわのいしじ）

# 日本兵の遺骨も…「土砂採掘断念、全国で声を」 具志堅隆松さん、1743 議会に要請書

《琉球新報 7/20(火)7:19 配信》

日本兵の遺骨も…「土砂採掘断念、全国で声を」 具志堅さん、1743 議会に要請書 (琉球新報) - Yahoo!ニュースより



名護市辺野古の新基地建設で、政府が沖縄戦の激戦地となった本島南部地域の土砂使用を計画していることを巡り、沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー」は19日、土砂採取計画断念を全国の地方議会から国に求めるよう要請する文書について、1743の県議会と市町村議会に同日付で送った。県内にはすでに送付済み。具志堅隆松代表が県庁記者クラブで発表した。

要請書では「南部地域は去る沖縄戦で多くの将兵・住民が戦火に倒れ、いまだに遺骨が埋もれている地域だ。亡くなった7万7458人の日本兵

は全国から派兵された」と指摘。南部の土砂採取は「沖縄だけの問題ではない。全国の問題だ」として、議員提案により議会の意思を示し、国に計画の断念を要請することを求めている。

会見で具志堅さんは「国は各家庭から父親や息子を召集し、戦地沖縄に送って戦死させ、遺骨を返していない。今度は埋め立てに使おうとは、国民と遺族、戦没者に対する裏切りだ」と訴えた。この問題に関し、糸満市米須の鉱山開発に注目が集まっていることについて、「ウチナーンチュ同士の対立の構図に心を痛めている。私たちが向かい合うべき相手は鉱山経営者ではなく日本政府だ。国の計画を断念させないとこの構図を引きずってしまう」と胸中を明かした。

遺骨を含む土砂を使用しないよう求める意見書は、県外でも奈良県議会や金沢市議会、茨木市議会、小金井市議会などで可決された。具志堅さんは「県内で賛同の声が大きくなってきたが、本土ではまだ伝わっていない。知ってほしいし、声を上げてほしい」と呼び掛けた。

## こらむ

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇

◆1985年5月8日、西ドイツ大統領（当時）ヴァイツゼッカーはドイツ敗戦40周年のこの日、ドイツ連邦議会で演説した。「過去に目を閉ざす者は現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、そうした危険に陥りやすいのです」（原文：岩波ブックレットNo.767「荒れ野の40年」）は有名な一節だ。 ◆それから35年余り、いま世界の多くの若者たちから共感を呼ぶグレタ・トゥンベリさんは語る。「行動することで希望が生まれる。行動こそが希望なのです」（2,018年BBC放送）と。 ◆沖縄県民の「あきらめない」という強い意志に通ずるものと感じる。 ◆遺骨の眠る土砂の採取計画はヴァイツゼッカーの演説と真逆の行為でしかならう！ ◆この国の政権は何と傲慢・独善なことか。この二人の爪の垢でも煎じて飲ませてやりたい！（2021.8.15）

### 2021年度会費のお願い

会費 団体：10,000円  
個人：3,000円

2021年度団体・個人会費のお納め  
をお願いします。カンパ熱烈大歓迎！

— 郵便振替口座 —

番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対

全国連絡協議会

## 大津幸夫さん(辺野古土砂全協元代表・顧問)のご逝去を悼みます



2015年5月の設立以来、辺野古土砂全協共同代表として、19年5月以降は顧問として、ご尽力頂いてきた大津幸夫さんが、7月23日午前5時48分、永眠されました。御年89歳でした。

7月25日に執り行われたご葬儀には、共同代表連名による弔電を手向けさせて頂きました。

(写真は、2019年5月26～27日奄美市で開催された辺野古土砂全協第6回総会にご出席されたときの大津幸夫さん)

### 弔 電

思いもかけぬ突然の悲報に接し、ただただ驚いています。2019年5月25～26日、奄美市で開催した辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会(辺野古土砂全協)第6回総会でお会いしたのが最後となってしまいました。年齢を感じさせない元気なお姿で、いつものお声で参加者を鼓舞されていたことが昨日のように思い出されます。

思い起こせば、13年3月、辺野古埋め立て用土砂を奄美諸島はじめ西日本各地から大量に採取する計画が浮上しました。14年秋、自然と文化を守る奄美会議から環瀬戸内海会議に連絡があり、15年5月31日の辺野古土砂全協設立に至りました。以来、大津幸夫さんには19年5月まで共同代表として会の活動を領導して頂きました。

大津さんは敗戦直後から当時米軍占領下の奄美で、奄美諸島住民の人権を守り民主主義を守る運動の中心的存在であり精神的支柱であり続けたと、奄美出身の方からお聞きしました。その存在感は、辺野古土砂全協の運動のなかでも十二分に発揮して下さいました。

「どの故郷にも戦争に使う土砂は一粒もない」を合言葉に、辺野古土砂全協は設立されました。辺野古土砂全協は大津さんを先頭に、この合言葉のもと沖縄・奄美そして西日本各地の採取地住民が連携し活動してきました。今後も「故郷の土を辺野古へ搬出させない」ために最後まで闘い抜くことをお誓いし、哀悼の言葉とさせて頂きます。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。

### ～・～ 在りし日の大津幸夫さん ～・～



写真 左・2015.10.2小豆島での集会で 中・2016.10.1天草市 第3回総会 右・2018.5.27沖縄市 第5回総会

沖縄からの便り

《連載 No.14》

いちやりば  
ちよーでー

**新基地建設のための美謝川付替えを許すな！**

**重要土地規制法の廃止を！**

**沖縄県の「設計変更不承認」を支えよう！！**

ヘリ基地いらぬ二見以北十区の会 浦島悦子



6月30日夕刻、名護市役所で「新基地建設のための美謝川付替えを許すな！／重要土地規制法の即時廃止を！」市民集會が行われた。ヘリ基地反対協議会と島ぐるみ会議名護が

主催し、大雨の中、名護市議会議員や市民ら70人余が参加した。

6月議会最終日のこの日、名護市議会は2つの決議・意見書を野党の賛成多数で採決した。一つは、沖縄防衛局が行う美謝川付替え(これをやらないと大浦湾の埋め立てはできない)に名護市との協議は不要として無条件に新基地建設を認める姿勢を示した渡具知市政に対し、美謝川付替え工事の中止を求めるもの。美謝川問題については、昨年12月、今年3月、6月と3回の市議会で熾烈な論戦が行われ、野党議員団が一丸となって渡具知市政を迫りしてきた。また、ヘリ基地反対協、いーなぐ会(いずれも島ぐるみ会議名護の構成団体)などの市民団体も、北上田毅さんを講師に招いての学習会や名護市への要請を重ねてきたが、官邸の顔色ばかり窺う市長には、市民の声は届かないようだ。

ちなみに、渡具知武豊名護市長は、今年に入って「基地問題に関する要請には面談しない(文書回答のみ)」ことになったという。私たちの要請に対応した担当課長がそう言うので「なぜですか？」と聞くと、「面談だと、『言った・言わない』話になるので…」と。「なるほど、市長は失言が多いからね」と私が言うと苦笑いしていた。半年後に迫った市長選を前に、失言はなるべく避けたいということか？

もう一つの決議・意見書は、先の国会で強行採決された重要土地規制法の即時廃止と臨時的対応(内閣総理大臣からの情報提供要請への拒否など)を求

めるものだ。「国民監視法」とも言われる稀代の悪法だが、否応なく基地周辺に居住せざるを得ない、あるいは「国境離島」に住む沖縄県民にとっては、とりわけ影響が大きい。辺野古新基地建設や自衛隊基地建設が進む中、それらに反対する住民が真っ先にターゲットにされるのではないかという懸念がある。それに対し、新基地問題の地元である名護市議会がいち早く声を上げた意義は大きい。

集會では、それぞれの決議の提案議員からの報告があり、それらを受けて、来年1月の次期市長選への立候補を表明している岸本洋平市議が「名護市政を市民の手に取り戻そう！」と訴えた。

辺野古基地問題を巡り、工事のためのサンゴ移植を許可するよう農林水産省が県に指示したのは違法だと、沖縄県が取り消しを求めた訴訟で、最高裁は7月6日、県の上告を棄却した。結果だけを見ると県の敗訴だが、裁判官5人のうち2人が「県の判断は違法とは言えない」と反対意見を述べたことは、国家権力の下僕となり下がった司法に絶望しか感じていなかった私たちにとって嬉しい驚きだった。

反対意見は、「設計変更が不承認になった場合、移植は無駄になる」「移植が環境保全措置に該当しているとは判断できない」等と踏み込み、沖縄県や県民の主張と合致する。これまで私たちは、国を相手の訴訟を何度やっても門前払いされ、無力感と闘いつつ続けてきたが、それは無駄ではなかった。

沖縄防衛局の設計変更申請に対する沖縄県知事の「不承認」判断が間もなく出る。県民そして全国の方でしっかりと支えたい。国はまた、それを裁判で覆そうとしてくるだろう。当然、県も裁判で闘うが、私たち地元住民も、国の不法・不当性を訴えるべく新たな裁判の提訴を準備中だ。(2021.7.25)

## 辺野古土砂全協 第9回総会

**2022年5月29(土)～30日(日)、鹿児島市で開催決定**

鹿児島県では、馬毛島の米軍訓練基地計画、そして鹿児島県全域からの辺野古埋立て用土砂の大量採取という暴挙に立ち向かっています。緊迫した中、「鹿児島に米軍はいらない鹿児島の会」の皆様が、第9回総会の鹿児島市開催をお引受け下さいました。とはいえ現状、コロナ感染の収束どころか「第五波」、先行きは不透明ですが、周到な対策を講じ開催を目指します。詳細は紙上でお知らせします。

絵本 『**ジュゴンの帰る海**——マカトとザンのものがたり』 発刊しました！

浦島悦子（著／作） & なかちしずか（絵）



かつて琉球諸島周辺海域に普通にいたジュゴンが、「絶滅危惧種」にまで追い詰められたのはなぜ？

美ら海に生きる主人公の少女マカトとザン(ジュゴン)が、沖縄戦や自然破壊、基地建設の歴史を通して未来を見つめます。

名護市東海岸に住む作者コンビが、子どもたちだけでなく大人にも、ジュゴンからのメッセージを伝えたいと思い、作った絵本です。

発行：ハモニカブックス 定価 1500 円+税

ご注文は以下へ。各書店、またネット書店でも購入できます。

ハモニカブックス mail:hamonica@hamonica@gmail.com

浦島悦子 090-7586-3348 mail:uraurae@kushibb.jp

### 編集後記

コロナ感染第五波、菅政権は東京五輪開催が全く影響なかったことにしようと躍起だが、国民の大多数は影響なしとは思っていない。不都合な真実を隠蔽する政治に辟易しながら、巣籠もり状態で事務局を維持している。第8回総会も昨年に続きリモート開催にせざるを得なかった。そんな状態の中、全く面識もない多くの市民の皆さんの会費・カンパの振込みに、元気を頂いています。感謝します。(松本)

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 20号》 2021年8月18日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子（環瀬戸内海会議） hibi\_etsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂（山口のこえ） masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇（環瀬戸内海会議） nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

…八記久美子（「辺野古土砂搬出反対」北九州連絡会） kanpanerura888k@gmail.com

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野 318-114 松本方 Tel・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 Tel 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会